

NPO法人 DAREDEMO HERO

代表者 内山 順子

日本所在地

住所：〒662-0051

兵庫県西宮市羽衣町7-30 夙川グリーンタウン3F

TEL：050-6865-6966

担当者：内山 順子

フィリピン所在地

住所：800 Highway 77 Talamban Cebu City

Philippines

TEL：0917-706-7575

担当者：内山 順子(日・英)

ウェブサイト <https://daredemohero.com/>

その他SNS等 <https://www.facebook.com/DaredemoHero2013>



団体目的

フィリピンにおける貧困の根本解決のため、貧困層の小学3年から大学生の奨学生58名に対し、大学卒業までの徹底した教育・生活支援を通じ、未来のリーダーとなれる人材の育成を行っている。火災や災害等により甚大な被害を受けた世帯への緊急支援及び、最貧困地区でのラーニングセンター運営、ライフスキル向上セミナー、栄養改善事業、農業再建事業などの自立支援を実施し、貧困層の地域力向上を目指している。

設立背景

2013年、現地法人DAREDEMO HERO INC.を設立。奨学生に対する教育支援及び緊急支援を中心に、活動の幅を広げ、2019年日本にNPO法人DAREDEMO HEROを設立。

コロナ禍で地域支援に力を入れ、セブの最貧困地区3か所にラーニングセンターを設立。現在、58名の奨学生への教育支援、約500世帯への自立支援を継続している。

フィリピン事業地

- 1, セブ州セブ市：タランバン地区、ルズ地区、カレタ墓地、イナヤワン最終処理場(ゴミ山) タップタップ(山岳零細農業地域)
- 2, セブ州ラブラブ市：ラブラブ最終処理場(ゴミ山)

事業概要

フィリピンには絶対的な貧富の差が存在し、貧困層がいくら努力をしても報われることが難しい社会構造が存在している。この問題の根本的な本質として、貧困層は教育を受けることができない背景がある。そのため当団体は、全ての子どもたちが夢と希望を持ち、努力が正当に報われる社会の実現のため、貧困がゆえに勉強できない子どもたちに対し、2013年より大学卒業までの徹底した教育支援を行っている。貧困問題の根本解決のためには、貧困の苦しみを知るもの自身が社会や地域のリーダーとなり、自分たちの力であらゆる社会問題を解決していく必要がある。

当団体では、子どもたちへの教育支援と共に、地域力の向上のための活動を行っている。そのひとつに、台風や火災などの天災により、最低限の生活を営むことが出来なくなった貧困層に対する、緊急支援がある。また、その日を生き抜くことに精一杯な貧困層が、貧困から脱却し、少しでも衛生的で文化的な生活をおくるために、必要なスキルや知識を提供するためのセミナーや技術指導を行っている。これまでに、金銭管理、女性の権利向上、栄養改善、口腔衛生改善、農業技術指導などの事業を最貧困層約500世帯に対して継続的に実施し、彼らの意識を変化させ、貧困からの脱却への具体的な選択肢を提供してきた。

また、日比のユースの交流を図るため、ボランティアやインターンの受け入れ、スタディーツアーの開催を積極的に行っている。

現地での主な活動は、現地カウンターパートDAREDEMO HERO INC.が実施している。



支援する子どもたちとの集合写真

団体構成員

日本事務所：無給専従1名、無給非専従1名
フィリピン事務所：有給専従11名(内日本人2名)、有給非専従6名、無給専従3名(日本人)

収支実績

2022年1月～2022年12月

収入：29,360,663円

支出：29,360,663円

事業分野



コミュニティ



産業



人材



生活



金融



救援



地球環境



平和・政治



人権全般



その他

企業、大学、行政等との連携実績

連携年月	連携先	内 容
2020年4月	広島修道大学	栄養改善プログラムの協働
2021年4月	味の素ファンデーション	助成金事業受託
2021年4月	風に立つライオン基金	助成金事業受託
2021年10月	ジョンソンアンドジョンソン	助成金事業受託
2020年4月	公益信託 今井記念海外協力基金	助成金事業受託

活動への参加方法

- 会員制度
- 会員以外の支援者制度(ドナー、サポーター等)
- 物品寄付
- ボランティア
- インターン
- 報告会、学習会
- スタディーツアー

※詳細は団体へお問い合わせ下さい



1 歯磨き指導 2 日本人ボランティアと現地の子どもの交流
3 貧困の現実(ゴミ山で働く子どもたち) 4 支援する子どもたち同士での交流 5 農業指導



活動
風景

特定非営利活動法人 DANKA DANKA

代表者 西村 宏子

日本所在地

住所：〒890-0064 鹿児島市鴨池新町28-1-1301

TEL：099-256-6214

e-mail：camp@dankadanka.org

担当者：西村 宏子

フィリピン所在地

住所：ミマロパ州東ミンドロ県ブララカオ町

TEL：0907-216-4818

担当者：Mae Isoy (マエ・イソイ) (英・タガログ)

ウェブサイト <http://www.dankadanka.org>

その他SNS等  <http://www.facebook.com/DANKADANKAJapan>



団体目的

惑星「地球号」の1員として、消えゆく森林の再生をするため“木を育てる人”を育てる事をミッションとしている。

設立背景

1990年代半ば、アメリカ、ヨーロッパ、日本などの先進国でアフリカの太鼓ジェンベの需要が急激に高まった。輸出国である西アフリカの国々では違法伐採が横行し、深刻な森林資源の枯渇に直面しているという報道が頻繁になされた。フィリピンで森林伐採の調査を経験した現理事長が、西アフリカ旅行中にジェンベの素材となるディンプの木が集積場に遭遇し、木の再生の必要性を実感したことから活動を開始した。セネガルとフィリピン、2つの事業地に活動拠点ができ活動の継続性が確保されたため法人登録をした。

フィリピン事業地

ミマロパ地方東ミンドロ県ブララカオ町



ガートル小学校での苗木育成準備

事業概要

フィリピン島嶼群の7番目に大きな島ミンドロ島の南端、東ミンドロ県ブララカオ町がDANKADANKAの活動地域です。ブララカオ町には主にハヌノオ・マンギャン族が居住していますが、地域のなかで脆弱な立場に置かれています。当法人は、活動地のマンギャン族からの要望があれば応えるという立ち位置で、先住民のエンパワーメントを目的に現地の自主性・自発性を尊重しながら自分たちの身の丈に合った活動を行っています。

《これまでの活動》

これまでにを行った主な活動は、マンギャン族の伝統クラフトや野生コーヒー・カカオなどのマーケットサポート、避妊に関心のある女性たちのための生活識字教育、小規模マイクロクレジット事業等があります。台風常襲の地に住む焼き畑農耕民のマンギャン族にとって現金収入源の多様化は大きな課題です。彼らの要望に応え「台風被災地復興支援のための先住民族マンギャン族の豚飼育を通じた所得創出パイロット事業」(JICAの草の根技術協力事業)を実施しました。フィリピン・食用肉市場でのナチュラル志向の高まりに後押しされ、冠婚葬祭などの自家消費用に飼育されていたマンギャン族の豚を現金収入源に育成する事が目的でした。日本の自然豚の飼育技術を紹介し、マンギャン族と共に飼育実験を重ね現地の環境や条件に適正化した自然豚飼養管理テキストを制作しました。事業終了後は現地のマンギャン族グループが自主的に普及に努めています。

《今・これから活動》

もう一つの現金収入源として、ミンドロ島の自生種カンラン科の苗木育成と果樹栽培に取り組んでいます。薪用に伐採され消失の危機にあるカンラン科の木(現地名サヘン・ダカ・サロン等)は、台風常襲の地において防風林として適しており、また、その樹脂は近年市場価値がでてきています。森林の復元と先住民の現金収入源の多様化を目的とした長期事業を現地の進捗状況に合わせて行っています。事業開始時に、フィリピン先住民の持続可能な森林経営に向けた苗木生産事業(緑の募金助成2020年)を実施し苗木育成の体制を整えました。ブララカオ町内3地域で苗木の育成が行われています。



団体構成員

日本事務所：無給非専従4名

フィリピン事務所：無給非専従2名

収支実績

2022年4月～2023年3月

収入：4,521,600円

支出：4,520,606円

事業分野



コミュニティ



産業



人材



生活



金融



救援



地球環境



平和・政治



人権全般



その他

企業、大学、行政等との連携実績

連携年月	連携先	内 容
2015年7月～ 2016年2月	鹿児島県環境林務部	H27年度森林環境税関係事業 「樹木医に学ぶ！森林環境教育」
2016年3月～ 2018年6月	国際協力機構(JICA)	草の根技術協力事業(支援型)「台風被災地復興のための先住民民族マンガンの豚飼育を通じた所得パイロット事業」
2018年10月～ 2019年3月	鹿児島県国際交流協会	ハミラットナチュラルファーム育成支援事

活動への参加方法

- 会員制度
 - 会員以外の支援者制度(ドナー、サポーター等)
 - ボランティア
 - セミナー
 - 報告会、学習会
 - スタディーツアー
 - バザー(フェアトレード商品購入含む)
- ※詳細は団体へお問い合わせ下さい

活動風景



- 1 マンギャン族の主要現金収入源 ココナッツ
- 2 身近な素材ココナッツオイルの石鹸試作
- 3 マンギャン族伝来の樹脂採取方法
- 4 カンラン科の木の自生種を探索中
- 5 サヘンの山引き苗をみつけた！

認定NPO法人 地球ボランティア協会

代表者 理事長 稲畑誠三(いなはたせいぞう)

日本所在地

住所：〒659-0066

兵庫県芦屋市大榎町1-11

TEL：0797-34-0078

担当者：稲畑 誠三

フィリピン所在地

住所：c/o UA&P, Pearl Drive, Ortigas Center,
Pasig City, Philippines 1605

TEL：(02) 637-0912 local 302

担当者：Jun Papelleras (英・タガログ)

ウェブサイト <http://www.gvs.jp>



団体目的

あらゆる機会を通じて、ボランティア活動の輪を広げ、主として開発途上国の住民の総合的な生活向上と環境の保全を実現することにより、地球上の人々が、平和でやすらぎのある生活を楽しむことができる社会を創造することを任務・目的とする。

設立背景

本協会設立以前に(財)精道教育促進協会が行ってきた国際協力事業を引き継ぎ、これを独立させた。また本協会スタッフ及び関係者が設立以前から個人的に、または団体として行ってきた活動、経験を結束し、より専門的な団体として活動することにした。

フィリピン事業地

1. バタンガス州タナウアン市及びバレテ市
2. カガヤン州 ペニャブランカ市
3. 北スリガオ州 シャルガオ島
4. イロイロ州 ジャラル川流域

事業概要

1. バタンガス州タナウアン市及びバレテ市
昨年まで、バランガイ単位で、所得向上を目指した商品開発と販路開拓を行い、にしん油漬は、キャッサバパイ、スリッパ、木工品等の生産販売が開始された。現在は、フォローアップを行っている。
2. カガヤン州 ペニャブランカ市(高地)、北スリガオ州 シャルガオ島(沿岸)、イロイロ州 ジャラル川流域(平地)において、それぞれの農漁村が、気候変動に対する耐性を強化した生計事業を通して生活向上を実現する事業を本年から本格開始するため、実施前の住民との打ち合わせや、先行事業の評価を実施している。



バランガイホールで住民との意見交換





団体構成員

日本事務所：有給専従1名、有給非専従3名、
無給非専従3名

フィリピン事務所：有給専従1名、有給非専従
2名、無給非専従15名

収支実績

2022年4月～2023年3月

収入:77,432,633円 支出:77,432,633円

事業分野



コミュニティ



産業



人材



生活



金融



救援



地球環境



平和・政治



人権全般



その他



活動への参加方法

- 会員制度
- 会員以外の支援者制度(ドナー、サポーター等)
- 物品寄付
- ボランティア
- インターン
- シンポジウム
- セミナー
- 報告会、学習会
- ワークキャンプ

※詳細は団体へお問い合わせ下さい



1 所得向上事業の成果品と制作現場

2・3 所得向上事業の成果品を見本市に出店

活動
風景

特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン

代表者 高橋 潤

日本所在地

住所：〒167-0041

東京都杉並区善福寺2-17-5

TEL：03-3399-8123 担当者：武田 勝彦

フィリピン所在地

住所：ChildFund Japan Philippine Branch

100 Don Carlos Palanca, Legazpi Village, Makati,

1229 Metro Manila

TEL：0960-226-5893 担当者：滝田 裕之(日・英)

ウェブサイト <https://www.childfund.or.jp/> (英) <https://www.childfundjapan.org.ph>

その他SNS等 (日本語) <https://www.facebook.com/ChildFundJapan/> <https://twitter.com/ChildFundJapan>

<https://www.instagram.com/childfundjapan/>

(英・タガログ) <https://www.facebook.com/childfundjapanph/> <https://www.instagram.com/childfundjapanph/>

LinkedIn: <https://www.linkedin.com/company/childfundjapanph/>

YouTube: https://www.youtube.com/channel/UCOyP_944E6JCqf68DybkraA



団体目的

チャイルド・ファンド・ジャパンは、以下のビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

【ビジョン】すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

【ミッション】生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

設立背景

第二次世界大戦後、海外からの支援を通じ、児童養護施設の設置・運営を通じた日本の戦災孤児の支援を開始。1952年より社会福祉法人基督教児童福祉会(CCWA)として活動を拡大。1974年までに、のべ86,000名の日本の子どもを支援。1975年、アジアの貧困の中に暮らす子どもたちを支援するために国際精神里親運動部を創設。1987年、マニラにフィリピン事務所を開設。2005年、国際精神里親運動部を特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンに法人変更。あわせて、発展途上国の子どもの支援に取り組む国際的なネットワーク組織であるチャイルド・ファンド・アライアンスに加盟。2006年、外務大臣賞を受賞。

フィリピン事業地

Negros Occidental, Isabela, Guimaras,
South Cotabato, Cavite, Aurora, Misamis Oriental,
Zamboanga del Norte, Davao Del Norte, Metro Manila



子どもたちが学校に通い続けることができるようにするための、学用品や制服の支給

事業概要

1. 地域開発支援事業：教育、子どものプロテクションを中心とした包括的な活動で子どもの成長を支援する。2022年度においては、フィリピン共和国の10地域とネパール連邦民主共和国の2地域、スリランカ民主社会主義共和国の3地域において、スポンサーシップ・プログラムを通して、教育や子どもの保護を中心に、保健や防災、収入向上の領域で、約4,500人の子どもとその家族及び地域住民を対象として実施。また、貧困に起因する様々な問題の中で、特定の開発課題の応える支援事業をフィリピン(子どもの権利と保護)、ネパール(N連による教育施設建設を含む子どもの教育)、ベトナム(母子保健)、インドネシア(防災)、ラオス(障がい)で実施した。

2 緊急・復興支援事業：フィリピンでは毎年発生する台風被害に対し支援を続けている。ネパールでは、2015年の大地震緊急支援に取り組み、2018年から現在に至るまで、N連の助成を受け、学校再建と学校防災など復興支援を実施中である。その他、COVID-19への緊急支援として、衛生キットの配布、感染予防セミナー、食糧の支給などをネパール、フィリピンで実施した。2022年度、アライアンス・メンバーと連携し、ウクライナ人道支援、トルコ・シリア大地震への支援を実施した。経済破綻したスリランカの緊急支援にも取り組んでいる。

3. 広報・啓発・提言事業：日本国内の既存支援者・潜在支援者に向けてウェブサイト、メールマガジン、SNS、ダイレクトメール等で、フィリピンをはじめとする支援地域の状況や支援活動について情報発信するとともに、寄付を呼びかけている。また、OSEC(子どもへのオンライン性搾取)をなくすための啓発、政策提言活動を推し進めているほか、他のNGOと連携し、日本政府やG7首脳に対して、教育協力政策の拡充を求める活動を実施している。

団体構成員

日本事務所：有給専従12名、有給非専従3名、
無給非専従4名

フィリピン事務所：有給専従10名(内日本人1名)

収支実績

2022年4月～2023年3月

収入：420,934,356円

支出：455,147,063円

事業分野



コミュニティ



産業



人材



生活



金融



救援



地球環境



平和・政治



人権全般



その他

(子どもの保護と参加を中心とした子どもの権利、防災)

企業、大学、行政等との連携実績

連携年月	連携先	内 容
2003年～現在	株式会社 東横イン	東横INN国内全店舗からの寄付、パンフレットやポスターの設置
2009年～現在	GMOインターネットグループ	ウェブサイトの制作、チャリティクーポンの販売、ポイントの寄付
2013年～2022年	株式会社フェリシモ	フェリシモ 地球村の基金、寄付つきアイテムの販売「ラブ&ピースプロジェクト」
2015年、2018年	社会福祉法人 全国社会福祉協議会	・フィリピン台風ハイエン被災者復興支援 ・フィリピン防災取組支援
2022年	花王株式会社	・花王ハートポケット倶楽部「みらいポケット基金」
2018年～現在	外務省民間援助連携室 在ネパール日本大使館	日本NGO連携無償資金協力(N連)開発協力事業

活動への参加方法

- 会員制度
- 会員以外の支援者制度(ドナー、サポーター等)
- ボランティア
- インターン
- 報告会、学習会
- スタディーツアー

※詳細は団体へお問い合わせ下さい



1 ウクライナ緊急支援における、食料や衛生用品などの物資配布 2 日本国内においてOSEC（子どもへのオンライン性搾取）をなくすためのシンポジウム開催 3 子どもたちをあらゆる暴力から守るための、子ども、家庭や地域への研修、体制づくり 4 家庭で食料を確保することができるようにするための、家庭菜園の研修、種・苗の支給 5 子どもたちの教育環境を整えるための、耐震性の高い校舎の建設と安全な水場の建設



活動風景

日比NGOネットワーク(JPN)

代表者 横田 宗(運営委員会代表)※2024年5月9日より

日本所在地

住所：(事務局)〒113-8642東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館1階
(特活)アジア・コミュニティ・センター21内

TEL：03-3945-2615

担当者：(事務局)シャープ 茜

ウェブサイト <http://jphilnet.org/>

その他SNS等 [Facebook](https://www.facebook.com/jphilnet) <https://www.facebook.com/jphilnet> [Twitter](https://twitter.com/jphilnet) <https://twitter.com/jphilnet>

[Instagram](https://www.instagram.com/jphilnet) <https://www.instagram.com/jphilnet>



団体目的

フィリピンの人々との協力活動を行う日本のNGO間の相互理解および協力関係を促進するとともに、日本とフィリピンのNGO間の協働を推進することにより、両国市民社会の創造的な関係構築に寄与すること。

設立背景

2006年4月、日本とフィリピンの国交が回復して50年目の「日比友好年」の年に、フィリピンに関わる日本のNGO関係者が集まり、国内の関係NGO間およびフィリピンのNGOとの情報交換と協働を推進することを目的に「日比NGOネットワーク(JPN: Japan-Philippines NGO Network)」を発足させました。フィリピン側では、日本側のJPN設立準備委員からの早い段階からの呼びかけにより、フィリピン現地NGOによる「日比NGOパートナーシップ(PJP: Philippines-Japan NGO Partnership)」(事務局: Caucus of Development NGO Networks (CODE-NGO)) が2006年2月に発足しました。そして同年11月に、両ネットワークと、準備資金を確保し事務局の役割をした(特活)アジア・コミュニティ・センター21(ACC21)の3者が協力して、第1回の「日比NGOシンポジウム」をフィリピンのマニラ首都圏タギグ市で開催し、両ネットワークの設立を発表し、その後の両者の協働について展望を行いました。

フィリピン事業地

なし

事業概要

2024年4月現在、フィリピンにおいて貧困削減、環境保全、人権擁護等の活動に取り組む日本のNGOのうち9団体(正会員と準会員)と1大学ゼミナール(準会員)、研究者(準会員)が参加しています。(事務局：(特活)アジア・コミュニティ・センター21)

【主な活動】

- (1) 正・準会員の集いの開催
- (2) 学習会活動の継続と充実化
- (3) ウェブサイト、SNS、チラシ等を活用した情報普及
- (4) 財政基盤の改善
- (5) その他
 - 1) 国内外の関係組織等との協働ネットワークの促進
 - 2) 提言活動
 - 3) 緊急援助活動
 - 4) 一般市民や学生等からの問い合わせ・相談対応

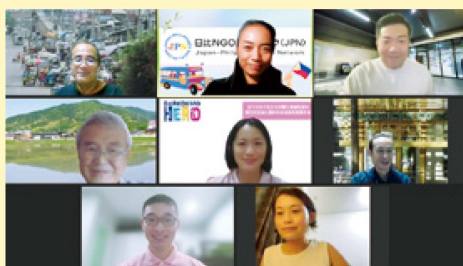
【会員団体】

◆正会員団体

(特活)ACTION、(特活)アクセスー共生社会をめざす地球市民の会、(特活)アジア・コミュニティ・センター21、(特活)イカオ・アコ、(特活)金光教平和活動センター、(特活)DAREDEMO HERO、(特活)フィリピン日系人リーガルサポートセンター

◆準会員団体

(特活)国境なき子どもたち、(特活)LOOB Japan



オンラインでの学習会(テーマ：企業とのWIN-WIN関係を築く)(2023年)

団体構成員

日本事務所：有給非専従1名(事務局員のみ記載)

収支実績

2022年4月～2023年3月

収入：240,700円

支出：299,867円

事業分野



コミュニティ



産業



人材



生活



金融



救援



地球環境



平和・政治



人権全般



その他

(NGO間のネットワーキング、アドボカシー、啓発活動)

企業、大学、行政等との連携実績

連携年月	連携先	内 容
2013年1月～2月	在フィリピン日本大使館	草の根・人間の安全保障無償資金協力フォローアップ調査事業(受託事業)
2016年7月3日	「立正佼成会一食平和基金」助成金事業	日比NGOフォーラム「元ストリートチルドレンが語る～フィリピンの現地リーダーから日本の若者への呼びかけ～」開催
2017年12月	上智大学	上智大学主催の講演「フィリピンの先住民族と人権」での講師尾本氏の紹介と協力

活動への参加方法

- 会員制度
 - 会員以外の支援者制度(ドナー、サポーター等)
 - ボランティア
 - インターン
 - シンポジウム
 - セミナー
 - 報告会、学習会
- その他(チャリティイベント、メンバー団体への紹介)

※詳細は団体へお問い合わせ下さい

活動風景



- 1 日比NGOフォーラム「元ストリートチルドレンが語る」(2016年) 2 学習会：講師を囲んで話を聞く(2020年) 3 在日フィリピン大使館 ラウエル大使(当時)を表敬訪問(2017年)
4 オンラインでの公開学習会(テーマ：ゴミ山で笑顔で生きる人たちから学ぶ)(2022年)
5 日比NGOフォーラム 全体会(2016年)